

# フロア構成 中間検討案



## フロア構成の基本的な考え方

- 基本的には下から上に向かって、動(賑やか)→静(穏やか)になっていく流れだが、全体として静けさを基本とするのではなく、会話を許容する図書館とする。静寂へのニーズには、そのための個室を設けることで対応する。
- 市民ワークショップの結果も踏まえ、児童・子育て関係とバリアフリー資料は下層階に、調べ物対応の機能は上層階に置き、中間に読み物がくる構成とする。(各フロアに配架する図書の分類は、左図の濃い緑の枠内に記載のとおり)
- 4F(児童・子育てのフロア)には、子ども向けの本だけでなく、子育て中の大人に適した図書を特集配架するコーナーなど、大人も過ごしやすくなるための工夫を検討する。また、「子ども用トイレ」や授乳室の設置など、子連れ利用に配慮したつくりとする。
- 5F(読み物のフロア)には、思い思いに読書を楽しめる閲覧席を用意するほか、防音機能により静寂を確保した「静読室」を設ける。
- 10代の若者たちの居場所となる「ティーンズエリア(仮)」を5F(または6F)に配置し、中高生向けの特集書架やフリースペースを設ける。
- 6F・7Fには、グループ学習室や、カウンタータイプの個人学習席、キーボードの利用も禁止して静けさを保つ学習室など、種類の異なる学習環境を確保する。
- 各階の上下移動には、館内専用のエレベーター、エスカレーター、階段を確保する。各階に受付カウンターを設置して利用者対応を行うほか、そのフロアに配架する本と関連するミニ展示を行うコーナーを設ける。
- 館内に開放感をもたらし、上下階のつながりを生む「吹抜け」を作る方向で検討する。ただし、全体を同じように貫くのではなく、上下で濃淡(広い・狭い)をつける選択肢も含め、各フロアの利用想定も踏まえながら最終的なあり方を検討する。
- 飲食ができるスペースがほしいとの要望もワークショップで数多くあげられたことから、施設全体で2か所(2フロア)程度、飲食可能なフリースペースを設ける。
- 館内全体で、Wi-Fi環境の整備や、電源コンセントの配備など、PC・タブレット利用に配慮した設備を用意して、利用者の滞在快適性を高める。